

全国協議会 ニュース

発行所
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒160-0005 東京都
新宿区愛住町23-1
Woody21-9階
TEL.(03)3356-8217
FAX.(03)3356-8637
発行責任者
渡辺孝一
http://www.marrow.or.jp/
E-mail:info@marrow.or.jp

郵便振替口座
00150-4-15754
銀行口座
さくら銀行 新宿支店
普通 5666655

骨髄移植推進財団が各地の関係機関の協力を得て実施している「ドナーの休日集団登録受け付け」は、昨年7月の札幌からスタートしましたが、2月末までに30カ所でおこなわれました。当日の飛び込みについて「受け付けない」ところがある半面、「善意には努力で応えたい」というところもあります。豪雪をも溶かす熱意が予想以上の成果を上げた新潟からの報告をお届けします。

善意には努力で応えたい!

新潟・長岡の集団受け付け

豪雪をも溶かす熱意に目頭も熱く

雪の新潟でも2月21日、長岡保健所による休日の集団登録受け付けが実施されました。会場は長岡赤十字病院で、すぐ隣では「雪しか祭り」が開かれたこともあり、予想をはるかに上回る103人もが登録しました。これは、長岡保健所の昨年1年間の倍にも上る数字で、保健所職員への献身的な努力のたまものでした。

この日の受け付け数は1000人の予定でしたが、前日までの予約者は39人にすぎず、私は降雪を考えれば50人でも集まってくれば成功と思っていました。ところが、当日の飛び込み者が後を絶たず、終了間際には1000人を超える見通しとなり、用意しておいた採血用具や登録用紙が足りなくなったのです。

どうなるかと心配していたところ、保健所の職員が「これから保健所まで道具を取りに行ってください。30分待ってもらってください」と、駆けだしていったのです。これによって3人の追加登録ができましたが、残念ながら5人はことわらざるをえませんでした。大雪の中をせっかく出かけて

まもなく発行! 患者さんとご家族のための小冊子

「白血病フリーダイヤル」を開設して2月末で2年7か月が経過いたしました。相談を受けるとなると初めてであった相談員もいましたが、それぞれがそれぞれの立場と経験で相談者の思いを受け止めようと懸命に傾聴してきました。今回、この間に寄せられた貴重な問題を、より患者さんの側に立った視点で整理した上で、「発病間もない患者さんとご家族に」お応えする小冊子「白血病といわれたら(仮称)」を作成することとなりました。

最近是一般向けの医療情報雑誌やインターネット等、様々な形で情報が入手できるようになりました。そのような中での子作は大変な重圧があります。が、(それでも)「白血病フリーダイヤル」にお電話を下される方たちが現実で大勢いらつしや

に善意の行動を感じました。すべてが終わったとき、県の方、保健所の方、そしてボランティアが自然に1カ所に集まり、赤十字病院のフロアにおける一般の患者や家族の方に遠慮しながら、音のしない三三七拍子で成功を祝いました。みんなの目が熱くなっていました。外の寒さとは無縁の、心があたたかくなる日だったことに感謝!

(にいがた・骨髄バンクを育てる会 阿部勲)



“患者家族電話相談”
白血病フリーダイヤル
やまい こくふく
0120-81-5929
※番号が変更になりました
毎週土曜日10時~16時

情報誌第5号の原稿募集

「この意味を心に深く受け止めて、体温を感じる、人の心の温かみを届けられる冊子にしたい」と編集委員一同、いまもバ

ソコンに向かっています。春の到来とともにお届けしたいものです。(村上順子)

協議会が発行している情報誌「骨髄バンク」第5号の原稿を募集します。発行は6月中旬を目指していますが、われこそはとお考えの方は4月15日までに原稿をお願いします。なお、原稿内容につき事前に事務局へご連絡ください。

▽骨髄バンク関連情報▽全米骨髄バンク年次総会であやちゃん展▽新規加盟団体紹介▽私と骨髄バンク運動▽エッセイ▽第2回公開フォーラム報告▽集団登録の内実▽最新医療情報(二座不一致移植の成績と骨髄バンクシステム、国際協力の現況、移植後の子宝)▽患者とドナーの体験記など

厚生省研究班シンポジウム開催

本年度の厚生省科学研究「造血細胞移植と免疫応答に関する研究」班(主任研究者・小寺良尚氏)の公開シンポジウムが2月6日、都立駒込病院講堂で開かれました。

トワーク」の現状▽同種末梢血細胞移植の現況と将来▽造血細胞の増幅▽造血細胞移植と遺伝子治療

7テーマに分けて進められましたが、冒頭の「造血細胞移植の現状と将来展望」の中で、小寺氏は全体を概観したあと「自家末梢血幹細胞移植を再評価する必要がある」と述べました。初の発表となる「患者相談窓口」については、相談内容について具体的なデータがほとんど示されず残念な報告となりました。そのほかの発表項目は次のとおりです。

▽海外骨髄バンクとの交流ならびに骨髄移植成績の現況▽HLA-DNAタイピングに関するシナトルとの共同研究▽造血細胞移植によるマイナー抗原の役割▽HLA-DNAタイピングと移植成績▽腫瘍性疾患に対する骨髄移植の成績▽HLA適合度とGVHDならびに生存率の関係▽移植細胞数と生着率との関係▽研究班「骨髄血ネッ

その疲れに、**リゲイン**を。

肉体疲労時の栄養補給、滋養強壮に。
Regain 医薬品
メーカー希望小売価格: 50ml・291円(本体価格)

フジテレビを見ても見ぬふりは
やらせじゃないの

フジテレビ

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンクNOW

●新規ドナー登録者、月間2000人台が4カ月続いています!
1月の新規ドナー登録者数は2,128名で、4カ月連続2,000人を超えました。昨年4月から全国約60カ所(36都道府県)の血液センター・献血ルームで、毎週土日・祝日(所により月1~3回)にドナー登録受付が開始され、また、保健所のドナー登録受付場所・曜日も拡大されていることにより、ドナー登録者が増大していると考えています。

●国際協力事業の状況(97年4月から99年1月)、HLA照合サービス状況
日本→NMNDP
予備検索 298件(適合183件)、正式登録 164件、(日本への提供38件)
NMNDP→日本
予備照会 742件(適合17件)、正式登録 30件
日本→台湾
予備検索 158件(適合11件)、正式登録 52件、(日本への提供2件)
台湾→日本
予備照会1件(適合0件)、正式登録1件
その他の国→日本
正式登録48件、移植4件(日本から韓国へ2件、香港へ2件)
※1月は日本より、アジア諸国(韓国1件と香港1件)へ2件の骨髄提供を行いました。

HLA照合サービス依頼件数 1月 92件(昨年4月からの累計955件)、うちBMDW照合依頼件数1月35件(昨年4月からの累計465件)

●「休日のドナー登録集団説明会・登録採血」予告
2/14(日) 広島市・広島国際会議場(60名)
2/21(日) *長岡市・長岡赤十字病院(50名以上)
2/28(日) *柏市・柏市教育福祉会館(90名)
3/7(日) 神戸市・神戸交通センタービル(調整中)
3/14(日) 熊本市・国立熊本病院研修センター(60名)
3/14(日) *富山市・アピタ富山店(50名)、福岡市(日程調整中)
※「*」印は県主催

	1月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,128	110,248	124,492
患者登録者数	135	1,596	7,317
骨髄移植例数	36	-	1,865

骨髄バンクボランティアダイヤルフリーダイヤル
0120-892-106

心からのご寄付をありがとうございました

1月26日~2月22日

(株)多田屋楽器サンピア店	現金	13,656円
尾西ライオンズクラブ	現金	118,000円
村上順子	現金	4,320円
鈴木純子	現金	1,340円
今田幹	現金	10,000円
平成国際大学校友会	現金	35,000円
ピアノ三重奏(公的骨髄バンクを支援する東京の会)	現金	174,000円
TDK成田工場・テクニカルセンター		
	現金	300,000円
広瀬おり子	切手	900円
中内美弥子	切手	4,500円
(株)クボタ水情報システム部		
	切手	7,245円
新田恭平・雅子	現金	20,000円
●佐藤きこ子患者支援基金		
浜つばめ保育園	現金	40,000円
●あやちゃん基金		
小野純一	現金	20,000円
		(敬称略)

活動資金の援助をお願いします
銀行口座
さくら銀行 新宿支店
普通 5666655
郵便振替口座
00150-4-15754
全国骨髄バンク推進連絡協議会

4大ドームGLAYコンサート 募金活動始まる

4大ドームでの人気グループ「GLAY」のコンサートツアーでの募金活動が始まりました。4カ所のドーム球場で合計15回の公演で、60万人の若者が集まります。その皮切りとなった大阪ドームの様子は左記の報告の通りですが、その後の名古屋・福岡に続いて、東京では3月4・6・7・9・10に開催されます。近隣の加盟団体のみなさんの積極的な協力をお願いします。

【大阪】2月10日、11日、13日、14日と大阪ドームでGLAYのコンサートが行われ、そこで4日間募金活動を行うことが出来ました。当初はビラの配布もできるといっていましたが、大阪ドームでは許可をいただけことが出来ませんでした。また、ドームという大変大きな会場でしたので、訪れる観客も多く、用意された2万5000個のバッジも1日7



各地の より 各 た

各地のたよりを
写真を添えて
お寄せください。

山口 初めてのあやちゃん展

2月20日(土)と、21日(日)の2日間、山口県宇部市と小野田市でそれぞれ地元郊外の大型ショッピングセンター内で、「あやちゃんの贈り物展」が開かれました。全国ではもう100回以上を数えるこの「あやちゃんの贈り物展」ですが、山口県では初めての開催でした。あいにく2日間ともめつたに

ない雪まじりの寒い一日でしたが、合わせて約3千人の人が見に来られました。感想を書いたアンケートも100枚以上ののぼり大盛況でした。アンケート

の中には「病気で苦しみながら書いた小さな子供の絵の中に純粋な心の美しさを感じ、残してくれた多くの絵が、私たちのところに多くの感動を与えてくれました」とありました。多くの人があやちゃんの残してくれた絵のすばらしさに感動していました。



（猶）

大阪 ちづる&貴子トークショー

「この机邪魔ですね」とセッティングされた椅子を、舞台の一番前に持ってきて座って、観客との距離を少しでも近くにする配慮から始まった、ちづる&貴子「人生珍道中・生きるってシアワセ」トークショー。

1月30日大阪リバーサイドホテルのロビーは多くの方でごった返し、誘導するボランティアも大忙し。300席用意した椅子も足らなくなり、50席追加。トークショーは息の合った二人の話に、笑ったり泣いたり、骨髄移植を待つ患者さんのお話



今回のトークショーは有料に、来場者は引き込まれて行きました。終了後、お二人の著書へのサイン会も大盛況。「きょう久しぶり」「うれいー来てくれはったん」「元氣になりはったん」なかなか途切れない列にも、お二人はハイテンションでサイン。

栃木 ボランティアの資質向上を 目指して

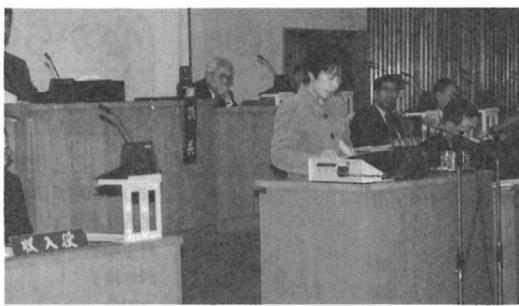
当会のメンバーと活動に興味を持つ市民を主な対象に、ボランティアとしての資質向上を目的として、平成10年11月3日(会場・栃木県立がんセンター)と平成11年2月5日(会場・小山市生涯学習センター)にセミナーを開催しました。

講師は医師3、ソーシャルワーカー1、患者家族2、患者家族滞在施設代表3の総勢9名で、延べ7時間に及び、参加者数は計84名でした。質疑応答・意見交換も活発に行われ、2回とも予定時間を超過してしまいました。患者家族

石巻 現職市議員負けの質問

市民の声を市政に反映させる「模擬議会」が1月28日夜、市議会本会議場で開かれた。今回一日議員を務めたのは、石巻市ボランティア連絡協議会加盟団体から選ばれた現職議員数と同じ34人。このうち15人が福祉施設全般や、ダイオキシン問題、介護保険制度等について石巻市長に一般質問した。当初緊張した感じの一日議員さんも徐々に緊張がほぐれ、現職議員に見劣りしない内容が多かった。

10番目には石巻支部の小野自子が骨髄バンク事業に対し質問。その中で石巻市長は登録の窓口拡大については、「県や保健所に市としても強く要望していきたい」。市主催のシンポジウムについては、「開催する方向で担当課と検討して行きたい」。市職員に対する啓蒙については、「すぐにでも実施して行



山形 歌謡ショーとふれ愛講演

「骨髄バンクを楽しく知る集い」「ふれ愛講演会&歌謡チャリティショー」が2月7日、山辺町中央公民館で開かれました。

た。親子間骨髄移植体験者(提供者)の歌手大泉逸郎氏の呼びかけで司会者、12人の歌手、舞台装置のスタッフ、当日のお手伝い(山辺青年会議所、高校生、当会会員、いずも音楽企画など)も、すべてボランティアでの参加となりました。

時節柄、どれだけの参加者があるか心配でしたが、500席の会場がほぼ埋まりホッとしました。歌謡ショーの前、「ふれ愛講演会」でさえ一致しなげれば、わが子に骨髄液をあげることはできない」と題して、小野寺が講演しました。会場の年齢層は高かったのですが、白血病は誰もがなる可能性のある病気であること、かつては不治の病だったが助かる病気になっ

苫小牧 ステップを踏みチャリティー

2月9日夜、チャリティーダンスパーティーがホテルニュー王子を会場に開催され、約260名の市民が軽快なステップを踊るとともに骨髄移植やバンクへの理解を深めました。



市内のバンド、ラリー松本&Brが懐かしいオールディーズを中心に演奏し、参加者は楽しそうにブルース、ジルバ、タンゴ、マンボなどのステップを踏んでいました。山口会長が「昨年5月、生前は白血病を病んでいたこともある夫が亡くなり、今回のダンスパーティーは感慨深いもの。命ある限り一人でも多くの登録者が増えるように骨髄バンク運動を続けていこうと思います」と挨拶しました。

そして、骨髄バンクの啓蒙ビデオを上映し、更なる理解と協力をお願いしました。お楽しみ抽選会も行い、幸運の1等賞品お米10kgをはじめ、6等までは生活必需品を、7・20等は「hideががんばらぞ」の図書を贈呈し、参加者の笑顔と割れんばかりの拍手の中、無事に終了しました。沢山の方々の善意とご協力に感謝し、より一層の使命を自覚しつつ会場を後にしました。(長谷川)